

(2023年8月25日配信)

NHK ラジオ深夜便「明日へのことば」

9月1日(金)4時台

「国を越えて、歌に生きる」

出演 田月仙(チョンウォルソン)声楽家・オペラ歌手

聞き手 坂口 憲一郎

田月仙さんは、オペラ歌手デビュー40年。デビュー作「カルメン」を今年9月演じる。在日韓国籍として、苦難を乗り越えてきた田さんの魂を揺さぶる歌唱力は、平和の「祈り」と言われる。オペラ製作者としても、オペラ「ザ・ラストクィーン」の企画、取材、主演、を勤めた。モデルの日本の皇族李方子(りまさこ)の生涯は、時代に翻弄された両親の姿に重なる。学徒勤労動員で日本に渡った音楽好きの父の影響で、4歳の頃から歌とピアノを習う。しかし、朝鮮学校卒で、音楽大学受験が出来ず、唯一門戸を開いていた桐朋学園短大に入学。首席で卒業し、オペラの道に進む。歌唱表現力は、オペラ界でも評判となり「フィガロの結婚」「蝶々夫人」「サロメ」など主役を次々と演じる。名曲「高麗山河わが愛」を発掘したエピソードも興味深い。オペラ「カルメン」公演で訪れたソウルで、この曲を知り、作者不詳の人物をアメリカで発見し、作者から曲を託され、世界で歌う。

～2017年8月5日、英連邦戦没者追悼礼拝に参加して～

坂口 憲一郎(岡山県岡山市)



毎年、8月の第一土曜日、午前11時から、横浜市保土ヶ谷区の英連邦墓地で、英連邦戦没者追悼礼拝が開かれる。ここには、太平洋戦争中、日本軍の捕虜となり、日本で亡くなった英連邦捕虜、1873人が眠っている。追悼礼拝は、戦後50年の1995年から毎年開かれ、今年で、23回目。

私は、岡山に居を移してから、参加の機会が少なくなったが、第一回から、幾度も追悼礼拝に参加させていただいている。追悼礼拝を立ち上げた永瀬隆さん、斎藤和明さん、雨宮剛さんから、戦争と平和について、多くを学ばせていただき、番組を通じて活動を紹介させていただいた。今は、、、永瀬さん、斎藤さんも亡くなり、雨宮さんも体調が万全ではない。追悼礼拝も、当初、中高校生や大学生などの参加者も多く見られが、今年の参加者に、若者が、少ないと感じた。この20年を超える年月に、、、墓地の緑が、いっそうボリュームを増した。手入れの行き届いた広大な芝生の墓地に立つと、赤とんぼが群れ飛び、大都会の中にいることを忘れさせてくれる。

11時から、追悼礼拝は、しめやかに始まった。讃美歌、追悼のことば、英連邦大使館各代表の挨拶、、そして第1回から追悼の辞を述べている牧師、関田寛雄さんのお話の後、讃美歌を歌い式は終わった。100人を超える参加者は、それぞれの国の墓地をめぐり、平和の願いを込め、献花と祈りささげた。ここに埋葬された一人一人の墓碑プレートを見ると、、、10代の若者もいて、若い方が多い。先日、釜石艦砲の取材で伺った釜石には、戦時中、500人を超える捕虜が居たという。埋葬者の中には、釜石の艦砲射撃で亡くなられた方もいるという。一つ一つの墓碑を見ていると、戦争がもたらす悲しみがこみあげてくる。戦争のむごさが浮かぶ。

今回、私は、鎮魂の笛壺「はそう」を持参した。キリスト教の墓地には不似合いかもしれないが、迷惑にならないよう、静かにハソウを吹かせてもらった。追悼礼拝を立ち上げた、、、亡き、永瀬隆さんと斎藤和明さんへの思いと、平和の誓いを胸に、静かに、長く吹かせて頂いた。